

個性が輝く まちが輝く

とっぎゃざー

みんな仲良く一緒に

2019.9.第21号



2019年度「男女共同参画週間」(6月23日～6月29日)

内閣府男女共同参画局が公募し、選ばれたキャッチフレーズです。

「男女共同参『学』」

「知る 学ぶ 考える 私の人生 私がつくる」

情報誌「とっぎゃざー」は、男女ともに個性と能力が十分に発揮できる八女市を願って名付けました。



福岡県立八女農業高等学校
生産技術科
二年生 入江 羽美さん(右)
二年生 光延 采香さん(左)



八女農業高校には四つの科がありますが、平成三十年度から四学科一括募集を行っています。一年生の一学期は全ての学科の基本的な技術と知識を学び、十月から希望する学科で専門的な学習が始まります。二年生からそれぞれの学科・専攻・分野に分かれて学習していきます。

学科と専攻について

1 生産技術科

①果樹専攻 ②茶業・作物専攻 茶業研究班 ③茶業・作物専攻 作物研究班

2 システム園芸科

①草花専攻 ②野菜専攻

3 生物利用科

①動物科学専攻 大動物班 ②動物科学専攻 小動物班 ③食品加工専攻

4 生活科学科

①ヒューマンサービス分野 ②フードデザイン分野

今回は生産技術科二年生の入江 羽美さん（みやま市立東山中学校卒業）と、光延 采香さん（筑後市立筑後中学校卒業）にお話を伺いました。



——早速ですが、お二人が四つの学科の中から「生産技術科」を選んだ動機を教えてください。

光延さん 八女農業高校のブランド米であるレンゲ農法とアイガモ農法を使用した「レンアイ米」のことを知って、「すごいなあ、私もぜひ作ってみたい!」と思って、生産技術科を希望しました。また、母の実家が農家で、トマトやナス、キュウリなどの色々な野菜を作っています。母は農業についてとても興味を持っていて、「学校で習ったことを教えて!」と言ったこともあります。

入江さん 私はひとりぐらしをしている祖母がひとりでお米を作っていて、幼稚園の頃からお手伝いしています。祖母が大変そうなので、自分をもっと手伝えたらと思い、この学科を選びました。

光延さん 農機具の使い方を覚えると、手伝いのときに役に立ちますし、トラクターの乗り方も勉強ができます。自分のやりたいことがしっかり学べるので、この学科に入ってよかったです。



——生産技術科の三年生は全員男子のクラスで、二年生は男子三十人で女子が二人と伺いました。四つの学科がある中で、あえて女子が少ないこの学科を選ぶことに対して、お二人の背中を押してくれる存在の人はいましたか？

入江さん 父は、「羽美はやればできる!」と言って、私がやりたいことは何でも応援してくれますし、祖母もとても応援してくれます。

光延さん 私の母は、「この科に入ることでしか体験できないことがあるから、しっかり頑張りなさい!」と言ってくれました。





—卒業後も農業関係の仕事に就きたいですか？

入江さん 就職のことはまだはっきりとは決めていません。今のところ「家族と一緒に農業をできた方がいいな」「手伝えたらいいな」という感じです。

光延さん 農業を継ぐのもいいかなあとも思っています。

—今だからできる体験や勉強をしていることは、とても幸せなことだと思います。しかし、クラスに女子が二人だけだと、不便に思うことや困ったことなどはありませんか？

二人 クラスの男子とは「男女がお互いにできることをする」という流れが自然にできていて、全く問題はありません。例えば、重い荷物を運ぶときは、二人で一緒に



運んだり、他の作業をしたりしています。体育の授業は女子が多いクラスと合同で行っていますし、お弁当の時間は二人で楽しく過ごしています。クラスは和気あいあいとしていて、とても仲がいいんですよ。

—はい。先ほど拝見した授業で、その雰囲気がとても伝わってきました(笑)

二人 私たち二人は、元々野球部のマネージャーで仲良かったので、困ったことがあればお互いに相談をしています。

—そうなんです。二人一緒なら、男子が多いクラスでも心強いですね。ところで、少し固い話ですが、お二人は、「男女共同参画」という言葉を聞いたことがありますか？

二人 中学校や高校の人権教育の授業で、「女性差別」については習ったことがあります。しかし、身近なところで「女性差別」についての実感や、問題点についてはまだ感じたことはありません。

光延さん 私の家では、父と母が家事の分担をしています。母の帰りが遅いときは、父がご飯を作ったり、お風呂の準備をしたり、洗濯をしたりしています。

—家事分担も男女共同参画の大切な課題の一つですね。しかし、最近ではデートDVやストーカー被害が身近な社会問題として起っています。

これから先、今日のこの話題のことを思い出してくださる場面があるかもしれませんし、困っている人を見かけることがあるかもしれません。「男女共同参画」という言葉は耳慣れないかもしれませんが、「もしかして、これは!？」と思うときは、ためらいなく気軽に、最寄りの相談窓口を利用することを思い出してくれると嬉しいですよ。

今日は、このことを伝える機会を持って良かったです。これからも頑張ってください。私たちも応援しています!



みんなの料理教室

たちばな男女まちづくり委員会

三浦綾子



6月16日(日)に、八女市働く女性の家 調理室において、たちばな男女まちづくり委員会主催の「みんなの料理教室」を行いました。実は、去年までの名称は「男の料理教室」だったのですが、性別にとらわれず「みんなで仲良く家事を楽しみましょう」と、「みんなの料理教室」に変更しました。

講師は、白木地区地域振興会議事務局長の入江兼也さんで、光友・北山・白木・迎春の各地域振興会の役員を中心に、28人(男性17人・女性11人)が参加しました。

今回は「ピーマンの肉詰め」「鶏つくねのチーズ焼き」「ポトフ」に挑戦しました。

くじ引きで決まった5〜6人ずつが5班となり、講師の入江さんからレシピの説明と注意点を受け、早速調理開始です。途中、つくねが柔らかすぎて、用意したパン粉が足りなくなり、役員が近くのコンビニへ買いに走る、という



トラブルもありましたが、皆の手際の良さとチームワークが功を奏し、予定よりも1時間早い試食となりました。1人700円という参加費以上の質・量ともに大満足の仕上がりで、残ったお料理はお土産として持ち帰り、家族にも大変好評でした。

参加者のアンケートには、
・これからも料理教室を続けてほしい。
・夫婦や親子で参加できるイベントがあったらいいなと思う。

・男性に家事の大変さを知ってもらおう企画があるといいな・・・。

・男女共同参画社会ってどんな社会？ 現状をなおした方がいい点はどこなところ？ 教えてください。
などのご意見がありました。



先進地視察報告

男女が輝くネットワークやめ

下川京子



7月6日(土曜日)、29名の参加を得て大牟田市に先進地視察に出かけました。午前中は、認知症介護について、大牟田市認知症ラフサポート研究会代表の大谷るみ子さんから、「認知症の人と生きる社会」というテーマでお話を伺いました。まずは、認知症を正しく知ることが大事であること。認知症は、脳の「健康問題」であり、何より本人にとっても、受け入れがたく不安な問題であることを理解しなければならぬこと。「やがては、自分も通る道」という共感を持って、「お互いを認め合う社会づくり」が必要であることを強調されました。そして、認知症になって、様々な能力が失われても、多くの人には「感じる心」が残っており、暴れたり、大声を上げたりするなどの症状は、その人の心の苦しみの表れだと考え、そのうえで、その人に寄り添っていくことが大事であるとの言葉に、「人間の尊厳とは何か」を考えさせられました。



八女市男女共同参画上映会



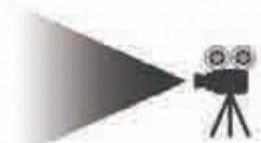
9/14(土)

会場 おりなす八女
ハーモニーホール

12:50 開場

13:20 開演

14:00 上映



問い合わせ 八女市男女共同参画推進課
男女共同参画推進係 ☎0943-23-1314

男女共同参画

川柳・写真作品表彰

男女共同参画週間（6月23日～29日）の取り組みとして「個性が輝く」をテーマとした写真・川柳を募集したところ、写真部門7人30作品・川柳部門40人239作品の応募がありました。7月23日に開催しました八女市男女共同参画推進審議会において、男女共同参画の視点で審査をしていただき入賞者が決まりましたのでご紹介します。



写真部門



最優秀賞



のだ よしかず
野田 義和さん

優秀賞



みずもと かよこ
水本 賀代子さん

優秀賞



こやなぎ かずあき
小柳 和昭さん

川柳部門

最優秀賞

違っても あなたの個性が 光ってる

堤 つつみ
秀夫さん

優秀賞

君とボク 認めて光る その違い

平島 ひらしま
亜弓さん

優秀賞

わたしがするね これが家族の 合い言葉

深野 ふかの
真由美さん

入賞

好きなこと 一緒にやりたい あなたと私

松下 まつした
泰子さん

入賞

二人して 助け補い よき家庭

池田 いけだ
正昭さん

入賞

幸福な 家庭に個々の

役目あり
江藤 えだとう
富志夫さん

入賞

君がいる 安心できる どんないも

鶴 つる
茉莉子さん

編集後記

仕事の現場にトンビの巣があります。巣の近くで作業をしなくてはならなくなり威嚇が始まりました。初めはなかったのに、ヒナが産まれたその日からです。子どもを守りたいという気持ちの現れでしょう。

家族に対する優しい気持ち！それを他人に対しても少しずつみんなが持ってくれたら、ニュースなどにある悲しい事件になることもないのかもしれないですね。

先月娘が通う看護学校の戴帽式に出席しました。三年生四十六人うち男子七人。たくさんの方の学び、実習にくようになり、患者さんと接することも増えていきます。今以上に人に対する優しさをもち、残り二年半しっかり学んでほしいものです。

私も娘に負けないように、日常で感じる物事に対して優しい気持ちを持ち続けたいと思つこの頃でした。

栗原 チカヨ